白美

深草少將

特別
チ12
3656
33

412
3656
83

景福殿文庫

次才

竹馬よいとや法乃見ぐさ乃
[illegible]
古謡

是い和尚三吉聖が
者ゆえ人を渡さん為なき
人い勇敢面大なるがあるゆえ
ひろひ上げて人又法はい説法乃
大意佛ゆえ人を法に為なき
人を法に為佛なるいやと

〈97-198〉

夫々 あらゆる御念仏乃拍子
やんわりいなせと哉とわん無し
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
弥陀たのむ 人ハあまの夜乃月
なまじや雲はれ就ども西へ行く
阿弥陀仏やなまふたと請ふ

称まのさく原飛りたおまのさく原へ
見りや我於梅 三たまき心り
悪程乃 ちりゝ車よ弥ゝ車
済むども済きし おもくとも
ひきやえいさらえいき水ら
一同またのむ弥陀お力称めや
たのめ南無阿弥陀仏 きすや

世くらしのをやうは見ちがひ
まのとりてづくり　秋はやミ城時
屋ぬ　勝月秋蕭屋　わつらは
すめる世ふ秋三東秋ひうぎ
りやは秋ふ秋ふのあとことはふ
いたく成さしてひうらん
えいさえいさえいさ　ひきやく

牛車　ものミなわく　くる
面ふ秋ふ秋ふ　えとふわすうき
黒髪成　蕭條のあくミたて
ふわる恵ひきうちき
又眉秋黒き孔雀　うたゝ心
むら鳥　うきと人ひも
きて　思ぬ人を成ぬきい

数子は数量あるべきころも　肩を
むすびてすうるまけ　すう戒
むすびて肩よ掛　もろきま
はこのこもの　乳心なるゝ南無
髮迦弥陀佛と信心をつくれも
我子ふありんなるわ　南無や
天竺髮迦如来ひらるよあらを
粗気をもとゝめ安産よるらを
ゝゝゝ子詞
祈ひらん　ひるかへ来るなる
何ゆみそらう　見なる物粗を
能くゝ見るいあ　ひのはまて
清のゝ形なるゝ　ゝゝ
ゝゝゝ　ゝゝ
撰まてとふて　ゝゝ
思ひもよらぬ事　城頭ゝ物か

都面のてをうけるまでは
いつふらぬなる粗女ばかりとの
國里いいがくの者うこゝ祝ハ
たゝ乃ばゝ面等とゝ者ゆてハ
う神ハ何故粗人とは笑うう
蓑みは足てゆき水粗ゑ形見乃
見とわ子ゑいきて離て人祝ゑ

思ひゝ私まそくん　おとも子と
いふものくあゝいう祝うう
へ業のう　作ゑもゆう神故ゑ
ゆうゝゑたゝ製ゆをちこち人ゑ
面祝さゝハ者も切ゆ子乃
上方ハ
但里やあふと車ゑ乃わ祝う意
こゝここここ
ゑて怎佛ゝ男ゆをくたさ我子ゑ

あさんといふ乃法なれ 聞けり
ゆゝしき法事の眼法信心
まうくしなくいひたと龍集乃
天中よなきるい廻向をもふせ
うれしき人乃言葉の眼うれしよ
付ても方殊く爰法楽の舞を
まの上へ舞はなわりやしそうへや

人々ようこし年なくもうれ
法悦も隆勝ぬ生子と説給へば
我子よあふむ乃袖あれや鸚子
あふむ乃袖なまさや鳥葉への舞を
ひんたまへ もとや方乃舞乃袖
けの子はなく鳥いの法なれ
実やおもせこう旅は何くとても

一月二日

すめい宿寸きのぬ河ゆは吉ひも

あ一世いろもの何くの祝うや

サヒ

生年種峠うへ多薩枝乃

ト

あ波乃ようへはくぼあの

万乃果ひうふなる武蔵の稲乃

ヲ上

霞乃ふ春ちふ　うの年月を

一月

送るふさしも二世とのぞ

あうの契るのの信い花の法

上九

弦ひもとあぬあ夏乃なきさ

ヲ下

ろ秋とかわ果て　比国乃稲

ヲ上

志きなすこ秋裏りかき契るう熊

下九

なるさうのふれてう一そ弱

二おもてとるも南ゆも係人乃

なほ花の袖のうつり香乃志るしに
ひさかきよ思ひ
なすこ計なる海
月の新作き
西乃大さる新作うけ見とわこ計
越く常さ〳〵露乃
いつ川ちとも さ〳〵ひ
ひとう〳〵なる〳〵ぬ思ひ
露もあをよ〳〵
出て梅つゝ三笠山
波つゝ山城よ井
か乃こして新作
ゆなわ〳〵かく
月計ひ〳〵乃あ
見よまうをてり
露乃あと乃を
梅つゝ三笠山
乃川を市
乃里あい
新作面新作
て月日送か
ゆゝひまの弱
乃面と

きさらぎ　ほうの　ゆきの　聖の　ものの　ものの

はるゝ　四方の　光　はるゝ　ぬき　ぬき　ぬき

上

花の　うき　ぬき　ぬき　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

流れ　ゝ　大井川　流れ　よ　浮世の　さら

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

なまじ　やさ　うわ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

下

松の　尾　小倉の　さと　の　夕　霧　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

多き　花衣　光　聖　集　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

法う　ぬ　法　と　義　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

うわ　も　た　ゝ　は　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

の　た　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

を　う　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

あ　う　と　と　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

赤梅檀の笠やうて神力成
現して天竺震旦我朝三國了
波羅みつ数くもらけ寺よろこん
たまへ是　安百姓法とも
法母摩郎夫人乃孝養所法光あ
なれい物もけ母を也またまふ
ひもうしいりんや人間所生
と成てなもとうハ母を也まぬと
子成ぬ生所こちうんうん
してう新是ゝる親子あふあ所
袖なれや面影あり無をこたまん
あり親子為や　是程おかき
人の中なとやりうこ所なき
やう母あり我子ちひや我子

上月

なむ南無釋迦牟尼佛と

粗人なりしもの子ゆゑや釋迦と信

心いかきを南無阿弥陀佛南無

釋迦牟尼佛南無阿弥陀佛と心

なりしも道弥なりしちうひよ

あそをてうひ竹へ　あまわふ

ろもいろをしやうけうう

おこしとの弟ぬ子よ能く寄て

見たまへとよく　心法ずやとく

もも名栄紙ふなりいうやうふ

りもをいけりさしものをあり

うめりとは松もへ世　道釋い

優曇華の花待ち夏の現り

幻ち　能く掛を案ずるよく

はゝ本尊はことよわも衆生の
ため孫好なまゝ八毎も誰ともよ
廻昱あふ法乃ちらしうゑ難き
敵ひも三はの車話を起こ海る
う靴しきよく